北海道博物館協会

学芸職員部会ニュース

【 第89号 】

2017（平成29）年12月28日　発行

新部会長挨拶

＜分野や世代の枠をこえた交流の場として＞

学芸職員部会　部会長
小樽市総合博物館　佐藤卓司

平成29年度の北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会（岩内）では参加者60名を超えました。会場準備や進行など運営に携わった方は大変お疲れさまでした。おかげさまで円滑な進行、会の盛り上がりや若手の勢いを感じることができました。

さてこのたび総会の役員改選により部会長を引き受けさせていただくことになりました。新役員そして会員のみなさまどうぞよろしくお願いいたします。

また森岡前部会長をはじめ旧役員の方々には部会にご尽力をいただいたことお礼を申し上げます。

私が幹事に推薦され運営に関わるようになって見受けた部会は、新たな事業や時代に合わせた方法での情報発信、アンケート意見を取り入れた研修会など知恵を絞った取り組みでした。その結果、会員数は増加し構成は館種や専門がさまざまな人になりました。

各分野での専門知識を持つ人が多いことは強みですが、それぞれの専門家の要望に応えるための研修会を開催するにはまだ熟成が必要で分野や世代をこえた会員同士の意見交換や親交を深めていくことがこれからの研修会立案の近道ではないかと考えています。

会を支え創り上げるのは会員のみなさまですが、部会長としてはその道づくりを支えていけるよう努力していきたいです。

平成29年度北海道博物館協会学芸職員部会研修会・総会

平成29年9月21日・22日に岩内町岩内地方文化センターにて、平成29年度北海道博物館協会学芸職員部会研修会・総会・エクスカーションを開催しました。全道各地から55名の参加がありました。

初日は総会と研修会。研修会は全体協議と技術研修の２本立て。2日目は岩内町郷土館、荒井記念美術館、西村計雄記念美術館、共和町郷土資料館を見学しました。木田金次郎美術館については両日とも部会員は無料で見学させて頂くことが出来ました。

全体研修テーマ「資料を残す技術・伝える工夫」

前半の全員参加の全体研修は**「資料の一括寄贈をどう管理するのか」**。最初に小川原脩記念美術館元館長の矢吹俊男さんに同美術館の出来るまでの経過や寄贈された作品の管理と、その後増え続ける資料の保管管理の厳しい現実についてお話をいただきました。

次に木田金次郎美術館の岡部卓さんには**「木田金次郎資料の保存と活用」**といった題で、遺族から自宅アトリエにあった大量の寄贈寄託資料の分類整理と保管の状況や、その展示紹介、また長期的な活用についての必要な措置についての悩みなどを伺いました。また、絵画とその画家にまつわる資料と一緒に展示したり、その絵にまつわる著作なども一緒に展示することで、絵画だけでなく画家や絵に対する理解の奥行きが深まると思います。

後半は技術研修として2つのワークショップを設定、１つは教育分野で、講師は西村計雄記念美術館の磯崎亜矢子さんの**「作品を3倍活かす教育活動」**。もう１つは保存分野で、元内藤表具工房（旭川市）の表具師内藤英治さんを講師に招き**「裏打ちによる紙資料の強化と補修」**という実践的な研修でした。

教育分野技術研修「作品を3倍活かす教育活動」

西村計雄記念美術館　磯崎　亜矢子さん

西村計雄記念美術館は1999年に開館した共和町の町立美術館で、西村計雄の作品を中心に約5,500点の資料を収蔵しています。その収蔵資料の活用について3つの視点をもって取り組むことで、幅広い教育活動が実践できるだけでなく、作品を理解してもらう効果が高まることがわかりました。

3つの視点の内、1つは展示です。「親子で楽しむ展覧会」は開館以来毎年実施しており、特に美術館にあまり足を運ばない層にアプローチする方法を毎回提案しています。2つ目は、展示を活用した教育活動です。ギャラリートーク・アートゲーム・トライアートなどを実施し、対話による観賞を通じて美術作品に対する理解を深

められるようにしています。3つ目はアウトリーチです。最近は介護・福祉施設に出向き、作品を通じた回想法を実践することで、高齢者の方にも美術作品を楽しんでもらえるだけでなく、認知症予防など福祉分野において美術館が寄与できることがわかりました。また、講演の後、磯崎氏が日々の活動で使用しているグッズを実際に見せていただき、参加者と意見交換も行われました。

保存分野技術研修「裏打ちによる紙資料の強化と補修」

元内藤表具工房（旭川市）内藤　英治さん

実際に掛け軸を分解したり、書の裏打ちなどを見せていただき、体験もさせていただきました。掛け軸は一枚の紙に本紙を貼り付けているのではなく、様々な部分に細かく分解できること。また内藤さんは、裏打ちはそんなに難しいものではないので、学芸員ひとりひとりが技術を身に付け、これらの技を伝承していって欲しい、とのことでした。

【総会】

始めに平成28年度の活動報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、次に29年度活動計画と予算が提案されました。この後役員改選を行いました。

29年度活動計画について内容をご紹介します。

1　平成30年度研修会
網走ブロックの美幌町が会場として予定されています。時期は9月頃の予定です。

2　学芸職員部会調査研究助成事業
28年度は出版助成事業のため実施してなかった事業を再開します。総額15万円（1件5万円×3件）。11月募集、12月上旬より調査研究事業がスタートします。

3　北海道内学芸員データベースの構築
会員の交流・連携ツールとして会員専用ページを設置し、本年度より運用開始します。並行して情報更新を行っていきます。

4　部会ＨＰコラムリレーの継続

引き続きコラムリレーの参加者を応募しています。現在は第 4 弾の「地域の謎を解き明かせ!学芸員の研究ノート」 が絶賛連載中。現在31回まで連載。投稿してもらう内容は「これまで調査研究してきたことを専門分野でない人に向けて、わかりやすく紹介する」ことです。参加したいと思った方は、担当の大谷さんにメールでお伝えください。コラムを書く際、投稿規定を守るようお願いします。

投稿規定「投稿記事の文字数は 1500 字以内、写真等画像は 5 枚まで」

申込・連絡先 → 八雲町郷土資料館 大谷茂之さん s-oya@town.yakumo.lg.jp

これまでのコラムや現在進行中のコラム「地域の謎を解き明かせ!学芸員の研究ノート」は、集まれ北海道の学芸員のHPで読むことが出来ます。

http://www.hk-curators.jp/archives/category/colmn-4/page/4

5　学芸職員部会ニュースの発行

年2回発行を予定する

6　国立アイヌ博物館設立準備室の霜村紀子さんから2020年白老に開館予定の国立アイヌ博物館の経過報告がありました。

【役員改選】

任期平成29年9月21日－平成31年度総会まで

役　　職	新役員氏名	ブロック	所　　属	担当
部会長	佐藤　卓司	道央	小樽市総合博物館	
副会長	澤田　健	道北	富良野市博物館	
副会長	猪熊　樹人	道東	根室市歴史と自然の資料館	
幹 事	藤沢 隆史	道北	礼文町教育委員会	助成金
幹 事	斎藤　和範	道北	北海道教育大学旭川校非常勤講師・ﾌﾘｰﾗﾝｽｷｭﾚｰﾀｰ	部会ニュース
幹 事	伊藤　大介	道央	ニセコ町有島記念館	部会ニュース
幹 事	細川　健裕	道央	北海道開拓の村	メーリングリスト
幹 事	栗原　憲一	道央	北海道博物館	学芸員DB、サーバ・HP管理
幹 事	志賀　健司	道央	いしかり砂丘の風資料館	コラムリレー
幹 事	小玉　愛子	日胆	苫小牧市美術博物館	研修会
幹 事	高橋　美鈴	日胆	様似郷土館	研修会
幹 事	林　　勇介	北網	湧別町ふるさと館JRY・　郷土館	研修会
幹 事	内田　暁友	北網	斜里町立知床博物館	研修会
幹 事	持田　誠	道東	浦幌町立博物館	学芸員DB
幹 事	加藤　ゆき恵	道東	釧路市立博物館	総会・コラムリレー
監 事	森　久大	道北	士別市立博物館	
監 事	小野寺　聡	日胆	新ひだか町博物館	
事務局長	大谷　茂之	道南	八雲町郷土資料館	会員管理・事務
事務局次長	石井　淳平	道南	厚沢部町教育委員会	

【情報交換会】

総会・研修会後、あづま鮨にて情報交換会が行われました。その後2次会へと繰り出し、夜は更けていきました。

【エクスカーション】

２日目のエクスカーションでは、岩内町郷土館、荒井記念美術館、西村計雄記念美術館、共和町郷土資料館を見学しました。また、両日は木田金次郎美術館が参加者に開放され、自由に見学をさせていただきました。

岩内町郷土館では、同館館長の坂井弘治さんから近世以来の岩内のあゆみや岩内の文芸活動、日本最古といわれているオルガンなどの収蔵資料についての説明を受けました。また、展示室も兼ねている２階収蔵庫も開放されました。

荒井記念美術館では、同館の佐藤瑞起学芸員より篤志家が私財を投入して開館した同館の歴史やコレクションの中枢であるピカソの版画作品について、展示室で説明を受けました。この日は快晴だったこともあり、高台に位置する同館からは日本海や積丹半島などを望むことができ、参加者の目を楽しませていました。

午前中の最後の目的地である西村計雄記念美術館では、昨日に引き続き同館の磯崎学芸員に登場いただき、展示室では西村計雄作品をはじめ、磯崎学芸員が再評価に取り組んでいる写真家・前川茂利の作品についての紹介をされ、作品の背景やその活用方法に関して活発に意見が交わされていました。

午後については希望者のみ、泊村「鰊御殿とまり」を見学しました。同館は『旧川村家番屋』と『旧武井邸客殿』で構成され、現

在地にそれぞれ移築・復元されたものです。館内には、ニシン漁に関する資料が展示されているほか、商工や農業など泊村に関する資料や美術作品も収蔵・展示されていました。また、茅沼炭鉱のあゆみを紹介する企画展が開催されており、村の総合博物館としての機能も垣間見ることができました。

北のミュージアム紀行 ～その６～

北のミュージアム紀行では、北海道内で近年リニューアルされた博物館またはリニューアル予定の博物館を紹介してきましたが、今回からそれ以外にも市町村で学芸員のいないような郷土資料館などにもスポットを当てて紹介していきたいと思います。

第６弾となる今回は、 2016年7月9日に美瑛町郷土資料館をリニューアルオープンした「丘のまち郷土学館 美宙 (みそら)」をご紹介します。是非、美瑛の丘・青い池・ラベンダー・十勝岳温泉などを訪れた際はお立ち寄りください！

丘のまち郷土学館「美宙 」

丘のまち郷土学館「美宙」は、町民の皆さんをはじめ、多くの方に美瑛の郷土や自然、天文について学ぶ場を提供し、文化、教育及び科学の振興を図り、より豊かな生活の実現を目指す施設です。十勝岳連峰や丘をはじめとした広大な大地に豊かな生態系が育まれ、そこに根付いた農業、観光などの歴史・文化があり、そのことを現在の美瑛町を支える大人たちと未来を担う子どもたちに学び伝える「美瑛学」を美瑛町では郷土学館を中心として推進しています。」HPより

美宙には大きく分けて３つのスペースがあり、一つは美瑛町の歩んできた軌跡を体験するコーナー。２つ目は訪れた人のためのコミュニティスペース、そして３つ目は館の名前にもなっている「美宙」の天文台（天体観測室）があります。

美瑛町の軌跡のコーナーでは、美瑛軟石や貝化石などのジオ展示、開拓の時代の農機具があります。農機具では丘のまちだけあって、豆やジャガイモなどの播種器具や、少し変わったプラウ型の芋掘り器などが展示されていました。

目玉となる天文台。口径40cmの反射望遠鏡と口径15cmの屈折望遠鏡があります。名寄市立天文台(Φ160cm)、陸別町の銀河の森天文台(Φ115cm)、初山別天文台と旭川市科学館(Φ65cm)、札幌市青少年科学館(Φ60cm)に次ぐ規模だそうで、１等星なら日中でもその輝きを目にすることが可能です。天文台長（嘱託職員）としては、なんと❣町内に移住した元玉川大教授・元鈴鹿短大学長の物理学者佐治晴夫博士が解説役を務めているそうです。

ようこそ学芸職員部会へ❣

学芸職員部会に入会された方、研修会に初めて参加された方から、自己紹介文を頂きましたのでご紹介いたします。今年度は何と12名、 相場大佑さん（三笠市立博物館）、 尾曲香織さん（北海道博物館）、表渓太さん（北海道博物館）、 工藤大さん（せたな町教育委員会）、 小坂みゆきさん（有島記念館）、 佐藤雄生さん（松前町教育委員会）、 城石梨奈さん（釧路市立博物館）、 鈴木志穂さん（福島町教育委員会）、 鈴木将太さん（恵庭市郷土資料館）、 平野千枝さん（一般財団法人　道南歴史振興財団）、樋口五月さん（一般財団法人　道南歴史振興財団）が新規に、磯崎亜矢子さん（西村計雄記念美術館）には再入会していただきました。（50音順）この内早々に自己紹介を書いてくださった5名について、紹介します。残りの方は次回のニュースで紹介したいと思います。

相場 大佑さん（三笠市立博物館）

学芸職員部会のみなさま、はじめまして。平成27年より三笠市立博物館で学芸員として勤めております。今年から学芸職員部会に入会させていただきました。私の専門は古生物学で、特に北海道の中生代白亜紀アンモナイトについて研究しています。アンモナイトの中でも「異常巻アンモナイト」と呼ばれる少し変わった形をしたグループに興味を持っていて、その分類や進化を研究しています。北海道のアンモナイト研究は日本の古生物学研究としては歴史が長いものですが、未だに新しい発見がたくさんあるので、日々、ワクワクしながら標本を観察しています。

研究以外では、さまざまなアンモナイトをキャラクターシリーズ化した「あんもふれんず」というものを制作していて、これを館内の装飾や市内の観光案内看板などに活用してい

ます。

まだまだ守備範囲が狭く、専門分野以外のことは現在勉強中ですので、北海道の歴史や文化のこと、動物や植物のこと、学芸職員部会の皆様にどうかご教授いただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

表 渓太さん（北海道博物館学芸部博物館基盤グループ・研究部自然研究グループ）

2015年から脊椎動物担当として北海道博物館で働いています。最近では特技の木登りやもの作りを活かして、展示会場設営での高所作業や、ジオラマなどの大道具・小道具作りを任せてもらえるようになってきました。出身は東京の山奥の方ですが、沢歩きやヒグマなど野生動物の調査にはまってすっかり北海道に居着いてしまいました。

在学していた北海道大学理学院（自然史科学専攻）ではシマフクロウのDNA研究を行っていましたが、今は実験設備がないのでとりあえずあちこち歩きまわって研究の糸口を探しているところです。いずれは博物館でもDNA分析ができる環境を整えようと画策しています。今回は初の参加となる学芸職員部会でしたが、道内各地のさまざまな専門の方と話すことができて研究連携などの計画も広がりました。今後ともよろしくお願いします。

工藤 大さん（せたな町教育委員会）

皆様お初にお目にかかります。さて、当町の博物館活動がどのような状態かというと、今年に入ってやっと動き出しました。平成16年度に大成町・北檜山町・瀬棚町が合併し新たに「せたな町」としてスタートしたのですが、合併前も後も学芸員が長らくいない町だったため、資料の保存がちゃんとされていない、台帳が作られていない、郷土館での講座が行われていないなど沢山の問題が累積していました。なので、まずは郷土資料館にどんなものがあって、地域にはどんな面白い歴史があるのかを町民の皆さんに知ってもらうために、講座や展示会を開設することにしました。最初は自分の専門である考古学関係の講座を大人向けと子ども向けで計5回、町内の産業に関する講座を2回、そして、町内で発掘された遺跡の特別展示を行ったところですが、中々狙ったとおりの普及・啓発活動が出来ていないのが現状です。

しかし、博物館活動が行われていなかったときに比べたら、少しは動きだすことが出来たと思います。なので、今後も様々な体験活動や展示会を行って先駆者である皆さんの地域の様に活発な活動をしていきたいと考えていますので、ご指導・ご助言をよろしくお願いします。

城石梨奈さん（釧路市立博物館）

今年4月に、晴れて学芸員人生の第一歩を踏み出したシンマイです。近世史及びアイヌ文化を担当させていただいております。今年度採用になってまもなく学芸職員部会に入会いたし

ましたが、自分の研究テーマが、道内の地域博物館におけるアイヌ民族展示の歴史、というような内容でしたので、道内の博物館に関しては並々ならぬ関心をかねてより持っておりましたし、学芸職員部会の活動もホームページで拝見しておりました。自分がその会の一員になる日がやってこようとは、思いもよらなかったわけではありませんが、感慨はひとしおです。

さて、今年度の研修会のテーマは、資料を管理して伝えていく工夫についてでした。博物館に受け入れる資料というのは、あらゆる活動の源ではありながら、それを生かすも殺すも学芸員次第だと思います。資料をどのように適切に整理し、活用していくかということが、その館だけで完結するのではなく、貴重な経験がこのような場で他館の方々との情報共有によって引き継がれていったり、ともに問題を解決していくことができることは、素晴らしいなあと思いました。

また、エクスカーションでは、岩内町の郷土館と美術館を巡りました。郷土館でまず、岩内というまちの歴史と文化を学び、文化活動を通した人間の育成に重点が置かれるようになった事情、それが可能になった背景について理解を深め、その後に訪れた美術館で、それが実際どのように実践されているのか、ということをじっくりと拝察することができました。

北海道生活は4年目ですが、まだ道内でも訪れたことがない場所がほとんどです。今回の研修会では、岩内町の魅力も存分に感じることができ、また訪れたい場所のひとつになりました。そしてもちろん、道内のいろいろな地域のいろいろな専門の方々と知己を得ることができる大変貴重な経験でした。今後の活動も楽しみにしております。

平野千枝さん（ 一般財団法人道南歴史振興財団　縄文文化交流センター）

学芸職員部会には今年入会し、研修会にも初めて参加させていただきました。大学では文化財保存科学を専攻し、収蔵庫の内装材から揮発する有機物の文化財材質に与える影響について研究していました。卒業後は呉服屋で着物の販売営業をし、その後は制作会社でイベントの企画や雑誌編集、デザイン業務をするなどあまり一貫性の無い職を経て、現在は北海道唯一の国宝「中空土偶」をはじめ函館市内の縄文時代の遺跡から出土した資料を展示する博物館で『縄文』の奥深さに徐々にのめり込んでいく毎日を送っています。ふと疑問に思ったことやなんてことはない日常的なことにおいても「縄文人だったらどうするだろうか…」、「いやいや、縄文人はそんなことはしない」などと妄想することを楽しんでいます。

今後は様々な出土品やそれらの出土状況、縄文文化を育んだ地域の自然についてより深く追求し、子供から大人まで多くの方に「あれ？縄文って面白い。もっと知りたい！」と思って頂けるよう日々努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

学芸職員部会調査研究助成事業　助成金決定❣

部会助成金につきましては、一度目の募集で枠が埋まらなかったため、追加募集したところ応募があり、北海道教育大学旭川校の斎藤和範さん、稚内市教育委員会学芸員の斉藤譲一さん他のグループ、浦幌町立博物館の持田誠さんが抽選なしで決定しました。

☆　編・集・後・記　☆

NHKのブラタモリ（11月25日（土）放送）の＃91室蘭に再び北の学芸員の仲間である谷中聖治さん（室蘭市民俗資料館）が出演されていましたね。テレビ番組に取り上げられることで、もっと身近な歴史や文化、自然を調査研究している学芸員や博物館がクローズアップされると良いですね、

今号は岩内町での研修内容の報告を中心に紹介しました。参加できなかった会員の方々にも研修会の雰囲気が少しでも伝わり、次回は参加してみようという気持ちになっていただけたら幸いです。「北のミュージアム紀行」は博物館のリニューアルを紹介してきましたが、今回から学芸員がいないような小さな資料館についても紹介していきたいたいと思います。他館を見て自館の展示などへのブラッシュアップになれば幸いです。北のミュージアム紀行は随時記事を募集しています。最近リニューアルした施設やこれから予定している施設の方、取り上げてみたい資料館の紹介などありましたら、編集までご連絡ください。

学芸職員部会に講師に来ていただいた元内藤表具工房の内藤さんですが、部会のあと、北教大旭川の博物館学資料保存論でも裏打ちの講師として来ていただきました。内藤さんは「どこにでも教えに行きますよ」とのこと。また、病気のために工房を畳まざるをえなくなり大変な状況のようです。博物館資料で表具や掛け軸などの修復がありましたら、ぜひお声をかけて下さい。とのことでした。よろしくお願いします。

学芸職員部会では入会も随時受け付けております。会員の皆様には職場内や近隣市町村でまだ会員になっていない方がいれば、お誘いいただきますようよろしくお願いいたします。

（入会申込案内　http://www.hkma.jp/hkcurators-recruit）

北海道博物館協会 学芸職員部会ニュース　第89号
発行日　2017年12月28日
編　集　斎藤 和範（北海道教育大学旭川校）
伊藤大介（ニセコ町有島記念館）
発行者　北海道博物館協会学芸職員部会
〒049-3106　北海道二海郡八雲町末広町154番地　八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
TEL 0137-63-3131　FAX 0137-64-3848
北海道博物館協会ホームページ　http://www.hkma.jp/
学芸職員部会ホームページ　http://www.hk-curators.jp/